

第16回 BELCA賞決定

BELCAでは、このたび第16回BELCA賞の表彰物件（10物件）を以下の通り決定いたしましたのでお知らせいたします。

なお、表彰式は来る平成19年5月16日(水) 16時より、東京都中央区日本橋蛸殻町のロイヤルパークホテルにて開催いたします。

第16回 BELCA賞表彰物件

ロングライフ部門

物件名	所在地	竣工年	用途	所有者	設計者	施工者	維持管理者
旧古河鉱業若松ビル	北九州市 若松区	1919 (2004 改修)	多目的ホール 会議室 (改修前) オフィス	北九州市	(株)大林組 北九州市(改修) (株)洋建築計画事務所 (改修) 片野博(改修)	(株)大林組	旧古河鉱業若松ビル 管理運営委員会
神戸女学院校舎棟	兵庫県 西宮市	1933	大学校舎棟	学校法人 神戸女学院	(株)一粒社ヴォーリス建築 事務所	(株)竹中工務店	学校法人神戸女学院
日本武道館	東京都 千代田区	1964	観覧場	財団法人 日本武道館	(株)山田守建築事務所	(株)竹中工務店	財団法人日本武道館
臨南寺本堂	大阪市 東住吉区	1974	寺院(本堂)	宗教法人 臨南寺	大成建設(株)一級建築士事 務所	大成建設(株)	宗教法人臨南寺

ベストリフォーム部門

物件名	所在地	竣工年	改修年	用途		所有者	改修設計者	改修施工者
				改修前	改修後			
アーバン BLD 心斎橋	大阪市 中央区	1981	2004	事務所	事務所 (物販含む)	(株)アーバンコーポ レイション	(株)プランテック総合 計画事務所	大成建設(株)
アップルストア銀座 (サエグサ本館ビル)	東京都 中央区	1967	2003	事務所	店舗・ 事務所	サエグサビル(株) アップルコンピュ ータ	ボーリン・シウィ ンスキー・ジャク ソン建築設計事務 所 KAJIMA DESIGN	鹿島建設(株)
旧日銀岡山支店 ルネスホール	岡山県 岡山市	1922	2005	銀行	多目的 ホール	岡山県	(株)佐藤建築事務所/ 協同組合岡山県設 計技術センター	(株)大本組 (株)中央設備 (株)片山電機工業 所 (株)みのるガーデン センター
くらしの友 桜新町式場	東京都 世田谷区	1993	2005	自動車 修理工場	集会所 (斎場)	(株)くらしの友	大成建設(株)一級建 築士事務所	大成建設(株)
COCON KARASUMA (古今烏丸)	京都市 下京区	1938	2004	店舗	店舗、 事務所	ケイアイ興産(株)	隈研吾建築都市設 計事務所 (株)三信建築設計 事務所 (株)日建設計	(株)竹中工務店
正田醤油株式会社本社屋	群馬県 館林市	1908 ～ 1915	2004	醤油蔵、 製品倉庫	事務所 ホール ギャラリー	正田醤油(株)	マヌファクト+ 堀之内建築事務所	清水建設(株) 河本工業(株)

BELCA賞の概要

BELCA賞は、適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なもの
の関係者をロングライフ、ベストリフォームの2部門により表彰し、もって良好な建築ストックの形成に寄
与することを目的に設けられた、我が国初の既存建築物の総合的表彰制度です。

BELCA賞は平成3年に創設され、今回の表彰が16回目となります。

受賞者には(社)建築・設備維持保全推進協会会長より表彰状が贈られ、また建物所有者に対しては、文化勲
章受章者・文化功労者の彫金作家帖佐美行氏（故人）の手による賞牌が贈呈されます。

表彰の種類として、ロングライフ部門とベストリフォーム部門の2部門が設けられています。

ロングライフ部門は、建築物のロングライフを考慮した適切な設計のもとに建設され、長年にわたり適切
な維持保全が実施され、建築後30年以上経過した建築物のうち特に優秀なものを表彰するものであり、ベス
トリフォーム部門は最近（改修から1年以上5年未満）改修され、その改修により画期的な活性化が図られ
た建築物のうち、特に優秀なものを表彰するものです。

なお、受賞者はロングライフ部門については、建物所有者、設計者、施工者、維持管理者の四者であり、
ベストリフォーム部門については建物所有者、改修設計者、改修施工者の三者です。

また、過去の主な受賞物件と今回の表彰物件まで含めた受賞数は以下の通りです。

ロングライフ部門・・・世界平和記念聖堂、三井本館、服部時計店、国立劇場、日本生命日比谷ビル、
在日米国大使館大使公邸、経団連会館、伊予銀行本店、丸石ビルディング、
立教学院諸聖徒礼拝堂、日清製粉株式会社鶴見工場工場本館、
世界貿易センタービルディング、三越本店本館、リーガロイヤルホテル 等76物件

ベストリフォーム部門・・・大阪マーチャンダイズ・マートビル、南座、霞ヶ関ビル、神戸郵船ビル、
水の科学博物館、横浜市大倉山記念館、品川女子学院、
聖路加国際病院1号館・トイスラーハウス、大和銀行虎ノ門ビル、
ピーエス株式会社オランジュリ、横浜赤レンガ倉庫、
横浜情報文化センター・横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館、
東京大学赤門総合研究棟 等80物件

第16回 BELCA賞選考委員会（順不同・敬称略）

委員長	内田	祥哉	（東京大学名誉教授）
副委員長	三井所	清典	（㈱アルセッド建築研究所 代表取締役・芝浦工業大学名誉教授）
副委員長	鎌田	元康	（東京大学大学院工学系研究科教授）
委員	碓氷	辰男	（東京建物㈱ 取締役技術サービス部長）
〃	川上	雅靖	（㈱ビル代行 常任顧問）
〃	北	泰幸	（㈱竹中工務店 取締役設計本部長）
〃	小堀	徹	（㈱日建設計 執行役員構造設計部門代表）
〃	野口	忠彦	（㈱大林組 常務執行役員東京建築事業部副事業部長）
〃	山田	博	（東洋熱工業㈱ 取締役技術統轄本部長）
〃	山本	健司	（㈱久米設計 設計本部設計長）
〃	渡辺	量夫	（㈱関電工 執行役員安全環境品質管理部長）

第16回 BELCA賞選考総評

BELCA賞選考委員会委員長 内田 祥哉

BELCA賞は、良好な建築ストック、つまり社会の中で生き生きと活用される建築の形成に寄与することを目的に設けられた賞である。周到な長期計画で安定した維持保全を継続しているものをロングライフ、巧みな改修によって建物を蘇生させたものをベストリフォームとし、二部門に分けて表彰している。平成3年から前回まで15回、合わせて146件の表彰件数に達するが、地球環境問題にともなう、建築物の長期利用の気運を背景に、BELCA賞への関心は年々高まりつつある。

ロングライフ部門は、現存する建築物の平均寿命も延びていることをふまえ、前回から応募要件が「30年以上」に延長された（前々回まで20年以上）。また、今回から、表彰対象者を、新築当時の関係者だけでなく、改修設計や改修施工で貢献のあった方々をも含めさせていただくこととした。

以上の要件のもとでの厳正な選考により、第16回BELCA賞は、ロングライフ部門4件、ベストリフォーム部門6件の合計10件を表彰することとなった。

今回表彰されるロングライフ部門には、ホール、会議室を備えた公共施設、大学校舎、観覧場、そして寺院と幅広い用途の建築が含まれている。新築後80年を超える事務所ビルをホールや会議室にコンバージョンした施設、新築後70年以上にわたり関係者や学生たちに大事にされてきた大学校舎、日本を代表する武道の競技場、近代様式の寺院があり、いずれも、関係者が不断の努力によって維持管理の成果を上げてこられたものであった。他方地道な努力が続けられているにもかかわらず、30年を漸く超えた建物の中には、当初の設計が充実していたために、未だ大規模改修の必要のないものもあり、それらが選にもれたことは、今後の審査方針に検討事項を残したと考えている。

ベストリフォーム部門では、店舗を含んだ事務所ビル3棟、ホール、斎場、企業の本社屋が選ばれた。これまでは、博物館や図書館へのコンバージョンが受賞する例が多かったが、今回は事務所の例が多い結果となった。風格のある著名なオフィスビルが、大規模なリフォームによって、時代の変化に合わせていく姿が実感された。前回に続き所有者の変更に伴った物件が受賞することとなり、不動産の流動化が進む時代も反映することとなった。

本年も、これまで同様応募物件の半数は経済活動の活発な大都市の建築であり、残念ながら、未だ受賞のない県からの受賞がなかった。建物の維持保全技術の全国的向上を目指す上でも、まだ受賞のない地域からの応募を切に期待したい。

今回表彰される物件が、我が国の優良な建築ストックの形成に寄与することを確信するとともに、建築物の維持保全に日夜努めておられる関係者に対して深い敬意を表したい。

*

第16回 BELCA賞ロングライフ部門選考講評

BELCA賞選考委員会副委員長 三井所 清典

第16回BELCA賞ロングライフ部門は4建物とその維持保全に努められた所有者、設計者、施工者及び維持管理者に授与されることになった。審査方法として今回もベストリフォーム部門と区別せず10件を選ぶ方法を選んだため、1次審査から厳しい選考となった。特に今回は都心部や地域の活性という社会的テーマに因んだ応募が多く、建物の用途が変わると共に、外観も変化した人を惹きつけるリフォームが目立った。その中でロングライフ部門の特徴をあげると、旧古河鉱業若松ビルは地域の活性化の拠点づくりとして市民の寄付を含む積極的な運動によって美しい外観が保存され、かつ市民団体の運営によって活発に利用されている。これからの保存のモデル的事例と考えられる。また、日本武道館をはじめ耐震補強の巧みさが目立った。安易な手法によらず、高度に配慮されて建物のデザイン性を壊さず、うまく保存に成功したと評価される。神戸女学院の材料や構法の厳選によって震災の被害を感じさせない復旧も見事である。臨南寺は、斬新なデザインが檀家の人々に次第に受け入れられ大切に扱われるようになった幸な建築の好例である。今回の受賞の数は少数であったが、それぞれ特徴のあるものが選ばれた。

「旧古河鉱業若松ビル」(1919年竣工、2004年改修)は筑豊地方における石炭事業展開のために、旧財閥系企業古河鉱業が若松につくった支店活動のためのオフィスビルである。敷地は現在若松バンドと呼ばれている、かつての石炭積出港として華やいだ海岸通に面し、建物は両端に大小2つの円形の塔をもつレンガ造2階建てで、20世紀初頭の世界を風靡したアールデコの粉飾が外部の各所に施された華麗な姿を見ている。その様子から、当時は日本国内はもちろん大陸までを臨んだ構えではなかったかと推察される。しかし、この建物も数年前には入居者もなく、老朽化も進み、取壊しまでも検討されるようになっていたところを、市民の寄付金や運営計画を含む保存運動に応じて北九州市が買い取り、2004年の改修工事によって現在の交流施設に蘇った。レンガ造を安全な建物とするための耐震補強と内外の装飾の復元工事は手仕事が多く、難しい保存工事を見事に完成させたことは評価される。また、保存運動を行なった市民団体が集って指定管理者となり、交流施設としての建物の運営に取り組んでいて、活発な活動が展開されている。この点でも保存活用モデルといえる施設である。

「神戸女学院校舎棟」(1933年竣工、2005年一部改修)は神戸から西宮の岡田山丘陵の現在地への移転に際し、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計により建設された施設で、今回受賞の対象は音楽館、講堂・総務館、図書館、理学館および文学館の校舎棟である。しかし、佇まいとしてはそれらが囲む中庭や周囲の自然と一体となった緑の環境を含めて評価されるものである。創建時、設計者は校舎が生徒の精神に及ぼす影響は大であり、美しい環境から生徒は直接教育されることを期待する、との意を述べているそうだが、73年の時間の中で見事に成熟した教育環境となっている。校舎はスパニッシュ・ミッションのスタイルでそれを表現する形や素材は丁寧に扱われ、それぞれの部位で存在感を示している。これは日常的な維持保全に対する配慮と1995年阪神・淡路大震災の被害の雰囲気壊さないよう配慮された耐震補強を含む復旧工事及び終戦直前に供出した金属の照明などの地道な復旧努力が実を結んだものである。ヴォーリズの意匠を大事にする設計者と施工者及び所有者の協調的な取り組みが高く評価される。

「日本武道館」(1964年竣工)は東京オリンピックの柔道会場として使用するため11ヶ月の短工期で建設された施設で、以来日本武道の殿堂として各種の大会に使われてきた。また、公益的使命をもつ行事やコンサートの会場としても広く活用されている。それは15,000人の大観衆を収容できる施設であり、内径80mの正八角形にまとめられた平面が観客にとって見易く、一体感も得易いこと、入退場がスムーズであること、さらに外観、特に優雅な屋根の姿が象徴的であり、多くの人に親しみと憧れの気持ちを抱かせるなど数々の特質を備えているためである。2000年度に実施された耐震改修は、筋交いなど安易な手法を採らず、スチール格子パネルをRCの柱梁枠組みに嵌め込む手法を用いて優雅な意匠を壊すことなく達成しており高く評価される。また時代と共に進歩するイベント演出技術にも設備・装置の改善でよく追従している。これは今後の長期維持保全計画と共に耐用性の保全として評価されるものである。

「臨南寺本堂」(1974年竣工)は、かつての広大な寺域の大部分が公園となり、結果的に公園の一部に公園を配慮して佇む建築のように見える。それは伝統的な寺の本堂の形や材料に依らず、銅板で葺かれたドーム状の屋根がプレキャストコンクリートの丸柱の列柱の上に浮いて見える斬新な姿のためでもある。以前の本堂の老朽化に伴う建替えの際、意欲的な住職の意に応えた設計者が、形だけでなく、材料や工事の方法まで合理性を追求し、工業化構法や乾式工事といった昭和40年の時代の精神を存分に発揮してデザインしたもので、建立当初とまどった檀家の人達も、建築家村野藤吾審査による第1回吉田五十八賞やBCS賞を受賞する中で次第に馴染んでいったようである。設備は用途上簡単であるが、天井に格子状に張られた化粧銅板の目地から吹き下ろされる空調システムは屋根の鉄骨トラスの中に仕込まれていて、管理も容易で巧みである。檀家に限らず地域住民に広く開放しながら、親しまれる寺として維持管理サービスの提供に努力している寺の姿勢を含め評価される。

第16回 BELCA賞ベストリフォーム部門選考講評

BELCA賞選考委員会副委員長 鎌田 元康

第16回BELCA賞ベストリフォーム部門には、例年にもまして優れたリフォームを行った多数の応募物件があり、書類審査による1次選考から激戦となった。今回選定された表彰物件は、昨年と同数の6件である。そのうちの5件の現地審査に立ち会わせていただいたが、リフォームという概念が幅広くとらえられていることを学ぶとともに、施主、設計者、施工者および維持・管理に携わる方々が、各々の立場から真剣にリフォームを成功させるために努力されていることを知ることができ、選考委員の1人として感謝したい。

「アーバンBLD心斎橋」(1981年竣工、2004年改修)は、築23年になるテナント稼働に苦しむ生命保険会社の不動産オフィスビルを買い取り、低層部に新たな外資系IT企業の展示販売のテナントを迎え、ステンレスパネルと空調負荷低減およびライトアップ効果に配慮したアルミ横ルーバーをもつガラスカーテンウォールにより外装を一新させ、心斎橋の新しい顔として蘇らせたものである。窓面から2mを区画し、テナントの玉突き移動により、居ながら改修を成功させていること、エントランスホールから各階テナント用の共用部は、水廻りを含めて新しいデザインによる快適な改修がなされる一方、裏方の部分は既存ビルの仕様をそのままに生かしローコスト化を図っていること、社会的ニーズに対応した適切な設備改修が行われていることなどが高く評価された。

「アップルストア銀座(サエグサ本館ビル)」(1967年竣工、2003年改修)は、銀座通りに面したB1階から5階までを銀行支店が入居することを前提として設計されたビルを、銀行再編という波を捉え、全く違う業種を入れ新たな街並みを作るとともに、町の活性化を図りたいという、ビルオーナーの強い意志により改修が行われた建物である。低層部ステンレスパネルと、上層階の軽快なダブルスキンのデザイン対比により新たな景観を提案していること、構造面では、一階正面中間柱の撤去により大開口のエントランスを確保し、さらに、一部のスラブレベル変更、吹き抜けやエレベーターの追加設置という大掛かりな改修を、デザイン的にも成功させていること、腰壁を撤去したダブルスキン上下に設けた開口により省エネを図り、排煙設備に加えスプリンクラーを新設し、安全性を向上させるなど、設備面においても時代の要請に合った改修が行われている点が評価された。

「旧日銀岡山支店 ルネスホール」(1922年竣工、2005年改修)は、長野宇平治の設計による、重厚な外観をもち、都市景観のシンボルと親しまれ、銀行として使用されてきた建物を、飲食も楽しめるコンサートホールとして再生させたものである。再生にあたり、メインホールに設けられた4本のL字型鉄骨柱を主要素とする耐震補強がなされたが、既存のデザインに同化させることなく印象的なデザインとして積極的に見せるとともに、スピーカー施設・空調ダクト・スポット照明の収まりスペースとして利用しており、それがデザイン的にも見事に成功している。さらに、ホワイエなどの新築棟を増築し、外塀を取り除いて開かれた都市公園を整備しているが、銀行建築が新しい機能を持って生まれ変わった好例であるとの評価を得た。

「くらしの友桜新町式場」(1993年竣工、2005年改修)は、準工業地域ではあるが、周辺は住宅地の雰囲気がある敷地に建つ自動車修理工場を、ともすれば敬遠されがちな施設である斎場に、周到な計画のもとコンバージョンさせていることが高く評価された。式の状況が最初から最後(出棺)まで近隣に全く漏れずに建物内で完結するように計画され、開口部には植栽が追加され外部から室内の状況が極力窺がえないようにしており、設備の更新にあたっては、構造躯体にダメージが生じないように、既存開口を最大限に活用し各種配管類や空調ダクトの設置計画がなされており、かつ、用途に合った設備システムへの変更がなされている。

「COCON KARASUMA(古今烏丸)」(1938年竣工、2004年改修)は、当時の先端技術のもとに建設された京都最大級のオフィスビルが、戦後GHQに接収された後、60年余り使用され続けていたものを、2000年に現オーナー会社を買収し、再生計画がスタートしたものである。改修の企画・計画では、京都随一の繁華街である八坂神社・祇園から、南座・四条河原町の大手デパートを中心とするショッピング街や活気のある錦市場とつらなる四条通りにおけるにぎわいの西端としてのランドマークとして位置づけることが意図され、それが、低層部の天平大雲紋の光壁によるファサードの一新、伝統的唐紙店、若者向けの家具・雑貨、映画館、和洋中バラエティーのある飲食という3階までの店舗構成などにより達成されている。ストックされていた既存タイルの有効利用、旧オフィスビル床のイベ材、低層部外壁の石などの再生利用、無理のない設備計画・更新なども高く評価された。

「正田醤油株式会社本社屋」(1908～1915年竣工、2004年改修)は、明治末期から大正初期に建設された醤油醸造用の木造の醤油蔵で、昭和40年代に製品倉庫へと転用され、区画整理と共に取り壊されることになっていたものを、改修して本社屋として再利用したものである。建設当初の蔵のオリジナリティを活かす形での耐震補強がなされていること、適切な位置に違和感のない形でアトリウム・ガラス屋根が設けられ、明るいオフィスとしていること、天井の高い高いオフィスに極めて面風速の低い床吹出空調を採用し、快適な執務空間を形成していること、適切な資材の再生利用がなされていることなど、改修でのきめ細やかな配慮が高く評価された。